

「一つ二つの草の実を、一合（イチゴ）食えとはおかし坊さん。」  
と、五歳の梅少年が歌を作つて答えたので、旅のお坊さんはびっくりして走り去つたということです。

## 連歌の道へ



幼年時代を小平瀉で過ごした梅少年——後の猪苗代兼載は、六歳のころになると、黒川（会津若松）の自在院というお寺にひき取られて、お坊さんになることになりました。自在院は、現在は相生町にありますが、そのころは現在の諏訪神社の近くにありました。そして、その諏訪神社を中心にして、会津の連歌の会はさかんに開かれていました。